

看 護 学 分 野

発達過程に共通する看護実践

授業科目	疫学		科目責任者	関山 友子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件なし
					時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	疫学とは何か、保健問題解決のためになぜ必要なのかを理解し、その方法論を習得する。また、健康指標、保健統計関連指標について理解する。							
	到達目標	1. 疫学の定義、公衆衛生との関連を理解する。 2. 記述疫学、疫学研究方法、疫学指標を理解する。 3. 感染症、食中毒に関わる問題の解決や疾病対策と疫学との関連について理解する。 4. 看護・保健活動に必要な保健・看護情報を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		疫学とは何か	[講義] 疫学の定義、疫学の歴史、疫学史上のエピソードなどを学習する。					関山	
2～4		健康と疾病異常の測定	[講義] 健康と疾病の概念、代表的な疫学指標（罹患率、有病率、死亡率、致命率、生存率など）を学習する。					関山	
5・6		疫学研究のデザイン	[講義] 症例対照研究、コホート研究、介入研究などの疫学研究のデザインを学習する。					江角	
7		疫学研究における偏りとその制御	[講義] 疫学研究において生ずる誤差や偏りにはどのようなものがあるか、なぜ起こるのか、それらを取り除くにはどうすればよいのかを学習する。					関山	
8		因果関係の判定と疫学要因	[講義] 因果関係を判定するための基本的な考え方と条件、疫学要因を学習する。					関山	
9～11		保健統計	[講義] 人口動態統計、人口動態統計、疾病統計、保健行政統計などのとり方とその内容を学習する。					関山	
12		サーベイランスと疾病登録	[講義] サーベイランスと疾病登録の定義、目的、内容などを学習する。					関山	
13		スクリーニング	[講義] スクリーニングの定義、目的、意義、実施上の原則、評価方法などを学習する。					関山	
14		疫学研究と倫理	[講義] 疫学研究における倫理的な問題、対象者選択の問題、介入研究における介入の妥当性などについて学習する。					関山	
15		試験						関山	
教科書	指定しない				参考書等	「看護学生のための疫学・保健統計」浅野嘉延、南山堂、2018年 「基本からわかる疫学入門（第3版）」大木秀一、医歯薬出版、2017年			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 学習態度（15%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	疫学は、保健問題を解決するための基本的な概念や方法論を提供する学問である。講義前に教科書を読んで予習をしておくことが望ましい。また、講義中は、「統計学」や「統計学演習」において学習した内容と結びつけながら理解する必要がある。教科書や配布資料等で十分復習して定期試験に臨むこと。予習復習時間は46時間以上。								

授業科目	精神看護方法		科目責任者	半澤 節子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の具体的な方法について学習する。							
	到達目標	1. 精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動について理解する。 2. 主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程について理解する。 3. 精神科領域の治療と看護活動について理解する。 4. 精神科における医療安全と治療的環境と看護活動について理解する。 5. 精神障害者の人権を理解する。 6. 入院治療の可能性における看護活動を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3		精神疾患・障害の回復段階に応じた看護活動	〔講義〕 当事者の希望に基づいた看護過程の展開について、急性期、回復期、慢性期という回復過程の特徴、リハビリテーションの特徴、就労支援の現状と課題を学習する。					半澤	
4・5		精神科領域の治療と看護活動	〔講義〕 薬物療法の特徴と薬物療法を受けている人の看護について、心理社会的療法、集団療法（認知行動療法など）の特徴と看護職の役割を学習する。					永井	
6		精神疾患・障害の受容過程	〔講義〕 精神疾患・障害の受容過程における病識、薬物療法の必要性の理解、長期予後などを学習する。					半澤	
7・8		精神科における医療安全と治療的環境と看護活動	〔講義〕 精神科における医療安全と治療的環境リスクとして、攻撃的な行動・暴力および自殺・自傷行為などの問題行動のアセスメントと危機介入の看護について学習する。					永井	
9～11		主な精神疾患・障害、問題行動の特徴と看護過程	〔講義〕 主な精神疾患（不安障害・ストレス関連障害・身体表現性障害、総合失調症、気分障害、物質関連障害、器質障害）の経過、治療と看護について学習する。					永井	
12		集団を対象とした看護および感情、認知および自我に焦点を当てた看護	〔講義〕 集団力動の基礎および集団を対象とした看護方法、感情を表出し、コントロールするための援助、認知への働きかけと自我を強化するための援助方法について学習する。					永井	
13		入院治療の可能性における看護活動	〔講義〕 精神疾患・障害を持つ人に対して入院治療の必要性、入院患者の特徴、入院形態、病棟環境の特徴、行動制限とリスクマネジメント、患者の人権擁護、チーム医療について学習する。					路川	
14		精神障害者の人権擁護と保護者の義務	〔講義〕 患者の権利を擁護しつつも、適正な精神科医療サービス及び福祉サービスを提供するための必要な法制度、精神保健福祉法における保護者の義務の今日的課題、精神科医療が必要な精神障害者が係る課題を学習する。					半澤	
15		試験						半澤	
教科書	指定しない			参考書等	授業の中で紹介する。				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」			評価方法	1. 筆記試験（80%） 2. e-learning の学習状況（20%） 3. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	本科目は「地域精神看護方法」の内容と相互に関連して進行し、「精神保健看護実習」につながる基礎的な知識を整理するための重要な科目となる。事前準備（予習）では「実践基礎看護学概論Ⅱ」で学修した関連の知識の確認、事後の展開（復習）では授業のレジュメや関連の資料を見直し、理解が不十分な箇所は教科書の関連の事項を読むこと、授業で紹介する website を参考にすることなど、必要とされる知識を整理しておくこと。また、予習および復習にあたり、e-learning の課題に取り組み、理解の程度を確認することを勧める。予習復習時間は46時間以上が必要である。								

授業科目	地域精神看護方法		科目責任者	路川 達阿起	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神の健康を増進し、精神の健康障害から回復を促進する場と看護の具体的な方法について学習する。							
	到達目標	1. 精神の健康の増進および回復を促進する場について理解する。 2. 精神障害者の家族に対する看護活動について理解する。 3. 地域(在宅・学校・職場を含む)における看護活動について理解する。 4. 外来における看護活動について理解する。 5. 精神障害者の権利擁護に関する看護活動について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法						担当教員
1	地域精神看護とは	[講義] コースオリエンテーション 精神の健康の増進および回復を促進する場としての地域の考え方について理解する。	路川						
2	精神障害者のケアマネジメント	[講義] 精神障害者の包括的ケアマネジメントおよび地域資源の活用と看護職の役割について理解する。	路川						
3	精神障害者の地域生活を支える看護活動	[講義] 訪問看護活動と精神科医療の外来(精神科デイケアを含む)における看護活動について理解する。	路川						
4	精神障害者の家族に対する看護	[講義] 精神障害者の家族の特徴および家族に対する看護について理解する。	半澤						
5	学校における精神保健看護活動	[講義] 思春期・青年期を中心とした学校におけるメンタルヘルス看護活動について理解する。	永井						
6	職域における精神保健看護活動	[講義] 職場における精神的問題をもつ人の早期介入と回復支援に関する看護活動について理解する。	永井						
7	精神障害者の権利擁護活動	[演習] 設定した場面や状況における精神障害をもつ教育支援者との対話により権利擁護活動と看護活動について具体的に理解する。	永井						
8	地域を基盤とした看護	[演習] 地域のさまざまな資源を活用して生活する精神障害者(教育支援者)の話を聞き、精神的健康の維持・回復のための地域看護活動について理解する。	路川・永井 半澤・高崎						
9	当事者組織の活動支援	[演習] 精神障害者または家族等の当事者である教育支援者と組織支援者である非常勤講師の話を聞き、当事者活動を理解し、看護職としての組織支援について理解する。	土屋						
10～14	事例を用いた看護計画の立案	[演習] 地域で生活する精神障害者のグループ別に提示された事例についてアセスメントを行い、看護計画を作成する過程を通して、援助の優先性と具体的な援助方法を考える。	路川・永井 半澤・高崎						
15	試験		路川						
教科書	「障害者総合支援法とは…〔改訂第3版〕」丸山晃監修、東京都社会福祉協議会、2020年 授業のなかで紹介するリストから、必ず1冊を購入する(「実践基礎看護学概論Ⅱ」で購入した教科書を含む)。			参考書等	適宜、授業のなかで紹介する				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅱ」			評価方法	1. e-learning およびレポート課題(40%) 2. 学習状況・授業の参加状況・学習態度(30%) 3. 筆記試験(最終回)(30%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	「精神看護方法」の内容と相互に関連して進行する。看護計画の立案は実習記録用紙等を使用し、事例を用いて行うものであり、当該年度の「精神保健看護実習」と連動している。 学習課題ごとに指示した内容について、e-learning 等により予習復習を行うことが求められる。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	公衆衛生看護活動論		科目責任者	塚本 友栄	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させたりするための看護の展開方法を理解する。							
	到達目標	1. 公衆衛生の理念と目標を追求する看護の展開方法について理解する。 2. ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1～3		母子保健福祉システムと看護の展開方法 学校保健システムと看護の展開方法	[講義] 1) 母子保健福祉における個別支援方法について理解する。 2) 母子保健福祉におけるグループ・地区組織支援、システムづくり、地域づくりの展開方法と保健師の役割を理解する。 3) 学校看護活動における保健師と養護教諭の連携と保健師活動の展開方法について学ぶ。					青木	
4～6		成人・高齢者保健システムと看護の展開方法 産業保健システムと看護の展開方法	[講義] 1) 成人・高齢者の健康づくり、生活習慣病対策、介護に関わるシステムと保健師活動の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた成人・高齢者への看護の展開方法を学ぶ。 3) 産業保健活動における産業保健師と行政保健師の連携した活動と活動の展開方法を理解する。					塚本	
7		在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 在宅療養者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 在宅ケアシステム、介護支援システムと看護の展開方法を理解する。					市川	
8・9		障害者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 障害者とその家族の支援ニーズ、障害者支援システムと看護の展開方法を理解する。 2) 地域の特性に応じた障害者への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					島田 島田	
10・11		難病患者支援システムと看護の展開方法	[講義] 1) 難病患者と家族の支援ニーズを理解する。 2) 難病患者支援システムと看護を理解する。					市川	
12～14		感染症対策システムと看護の展開方法	[講義] 1) 感染症対策システムと看護を理解する。 2) 感染症発症時、並びに平常時の保健師の役割と活動方法を学ぶ。 3) 結核対策、並びにエイズ対策における保健師の役割と活動方法を学ぶ。					春山	
15		へき地医療保健福祉システムと看護の展開方法	[講義] 1) 地域の特性に応じた在宅療養者と家族への看護の展開方法と支援体制づくりについて学ぶ。					青木	
16		試験						塚本	
教科書	「最新公衆衛生看護学 第3版 各論1」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2023年版 「最新公衆衛生看護学 第3版 各論2」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2023年版 「国民衛生の動向2022/2023」厚生労働統計協会、2022年				参考書等	「保健学講座3公衆衛生看護活動展開論」村嶋幸代、岸恵美子編、メヂカルフレンド社、2022年 「新版保健師業務要覧 第4版2022年版」日本看護協会出版会、2022年 「国民の福祉と介護の動向2022/2023」厚生労働統計協会、2022年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 筆記試験（85％） 2. 課題提出物（15％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	「保健医療福祉システム論」で得たヘルスケアシステムに関する知識と、「実践基礎看護概論Ⅲ」で得た公衆衛生看護のあり方に関する知識を基盤に、ヘルスケアシステム別の看護の展開方法を具体的に学ぶ。効果的に学ぶために、夏季休業中に予習課題を、開講後は実習に向けた復習課題を随時提示する。予習復習時間は46時間以上。教科書、授業資料及びMoodle等を活用して行うこと。本科目の単位取得は「公衆衛生看護実習」の履修条件(見込み含む)である。								

授業科目	公衆衛生看護方法論		科目責任者	青木 さざり	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次後学期		
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護、ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法と技術を習得する。							
	到達目標	ヘルスケアシステムを整備したり機能させるための看護の展開方法を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		地区活動の展開方法の実際	【講義】地区活動計画づくり、地区活動計画のあり方や考え方について学ぶ。					青木	
2		地区活動・地域診断に活用される理論	【講義】コミュニティ・アズ・パートナー・モデルやプリシード・プロセス・モデルなど、地区活動・地域診断に用いられる理論や地域把握の手法等について学ぶ。					青木	
3・4		演習オリエンテーション 地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（1）	【演習】栃木県内市町をフィールドとして、1つの市町を例にして、地域のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
5・6		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（2）	【演習】地域診断に必要な情報の種類と、情報を収集する方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
7・8・9		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（3）	【演習】地域診断に必要な情報を整理し統合する方法を学ぶ。 図表を用いた情報の整理や解釈の方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
10・11・12		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（4）	【演習】収集した情報から地域診断を行い、演習フィールド市町のヘルスニーズを明らかにする方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
13・14		地域診断と地域のヘルスニーズの明確化（5）	【演習】演習により明確にした演習フィールドのヘルスニーズについて、地区探査を通して得られた情報を追加し、演習フィールド市町の保健師から得た助言をもとに深める方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
15		保健福祉事業の展開方法の実際（計画立案、評価）	【講義】地区活動方法と保健事業の成り立ち・展開方法について学ぶ。					青木	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 総論 2022年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2022年 「最新公衆衛生看護学第3版 各論 2023年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2023年				参考書等	「標準保健師講座〈1〉地域看護学概論」第6版、標美奈子著、医学書院、2022 「標準保健師講座〈2〉公衆衛生看護技術」第4版、中村裕美子他著、医学書院、2020			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 演習態度および提出物（90％） 2. 講義において提出を求める記録物（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	公衆衛生看護活動において必要となる地区活動や地域診断の技術について実践的に学習する。 演習を効率的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。演習で作成した地域診断等の資料について、公衆衛生看護実習に向けて復習を行うこと。予習復習時間は12時間以上。演習内容は公衆衛生看護実習と連動しており、演習で取り組んだ地域診断について、実習を通して確認・修正し深める。								

授業科目	健康生活支援技術Ⅰ		科目責任者	青木 さぎ里		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	15	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	人々の保健行動の特性と、健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助方法を理解し、基本的な看護援助技術を習得する。								
	到達目標	1. 人々の保健行動に関連した理論と、保健指導の基本、並びに、その展開方法を理解する。 2. 家族を単位とした看護援助方法について理解する。 3. 健康問題の予防や健康の保持増進を図るための個人及び家族を対象とした看護援助技術の基本を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		保健指導のねらいと基本		〔講義〕保健指導の目的・目標、保健指導実施者の姿勢や信頼関係形成技術などの保健指導の基本を学習する。					塚本	
2		行動変容を促す保健指導技術		〔講義〕Health Belief Model、Transtheoretical Model、自己効力理論等の行動変容にかかわる理論について学習する。保健指導の展開過程について学習する。					塚本	
3		家族相談援助論		〔講義〕家族アセスメントとその基礎となる理論について学習する。健康課題をもつ家族員のいる家族の生活を理解し、看護援助方法について学習する。					青木	
4		保健指導の展開方法		〔講義〕個別の保健指導事例、地区活動の一手段として行う健康相談事例、ポピュレーションアプローチと連動した保健指導事業事例等をとおして、保健指導の展開方法を学習する。					塚本	
5・6		保健指導技術演習		〔演習〕保健指導技術演習オリエンテーション 模擬事例を用いて予防的意義の高い働きかけの対象（生活習慣病・メタボリックシンドローム予備群）への行動変容を促すための保健指導計画の立案方法を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
7		保健指導技術演習		〔演習〕立案した保健指導計画に合わせて、ロールプレイを行い、根拠に基づいた行動変容を促す技術、並びに、関心やタイミングを捉えた働きかけの技術を学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
8		保健指導技術演習		〔演習〕ロールプレイ演習の振り返り及びグループ討議を通して、保健指導において重要となることや予防的看護援助方法、行動変容を促す看護援助方法、セルフケア力を高める看護援助方法について学ぶ。					青木・春山・塚本・島田・市川岸・山岸	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 総論 第3版 2021年版」 宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2021年				参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「保健学講座 2公衆衛生看護支援技術」岸恵美子他編、メヂカルフレンド社、2022年				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 演習記録物及び演習参加態度（60%） 2. 授業中に出す課題（30%） 3. 講義中のワークシート（10%） 【評価のフィードバック方法】 1. および3. については、学生に講評する 2. については、模範解答等を掲載する				
備考	生活習慣病やメタボリックシンドロームの疫学・成因・診断・病態・予防法・治療法について、予習した上で授業に臨むこと。「公衆衛生看護実習」の準備となる科目である。授業後は前学期及び後学期の実習における患者教育や保健指導に向けて復習をしっかりと行うこと。予習復習時間は23時間以上。									

授業科目	健康生活支援技術Ⅱ		科目責任者	島田 裕子		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生の理念・目標を追求する看護の技術を習得する。								
	到達目標	1. 地区活動の一手段としての家庭訪問及び健康教育の意義と展開方法を理解する。 2. 家庭訪問技術を習得する。 3. 集団を対象とした健康教育方法を習得する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		ガイダンス 家庭訪問技術演習		〔講義〕 家庭訪問技術演習オリエンテーション 地区活動の一手段である家庭訪問の目的と特徴、並びに、家庭訪問に必要なとなる技術について学習する。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
2		家庭訪問技術演習		〔演習〕 模擬事例（乳児をもつ家庭）への家庭訪問計画の立案をととして、家庭訪問計画を立案する方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
3		家庭訪問技術演習		〔演習〕 立案した家庭訪問計画に合わせて家庭訪問のロールプレイを行うことをととして、実際に展開する方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
4		家庭訪問技術演習 まとめ		〔演習〕 ロールプレイ演習を振り返り、家庭訪問において重要となることや家族を単位とした看護援助方法、保健医療福祉サービス等の資源の利用を促す看護援助方法等についてグループ討議する。討議内容をグループ毎に発表し、学びを深める。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
5		地区活動の一手段としての家庭訪問 セルフヘルプ・グループづくりと支援		〔講義〕 地区活動の一手段として行う家庭訪問の展開方法について学習する。 セルフヘルプ・グループの特徴とグループ・ダイナミクス、並びに、グループづくりとグループへの支援について学習する。					春山	
6		健康教育の目的と方法 健康教育の企画と評価		〔講義〕 健康教育のパラダイムシフトとヘルスプロモーションの理念、並びにエンパワメントについて学習する。 健康教育の方法と特徴、教育媒体について学習する。 健康教育の企画書及び指導案の作成方法、並びに、健康教育の評価方法について学習する。					塚本	
7～14		健康教育演習		〔演習〕 健康教育オリエンテーション 演習フィールド市町における健康教育を企画し、企画書及び指導案を作成する。また、企画した健康教育で用いる教育媒体を検討・作成することをととして、健康教育の展開方法を学ぶ。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
15		まとめ		〔演習〕 企画した健康教育のリハーサルを行い、その結果に基づいて、健康教育内容を精錬する。					島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 総論 2023年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2023年				参考書等	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版」中村裕美子他著、医学書院、2020年 「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第1版」岸 恵美子他編、メヂカルフレンド社、2022年				
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 健康教育演習の参加態度と記録物（70%） 2. 家庭訪問技術演習の参加態度と記録物（30%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する				
備考	対象の生活の場で行われる看護に必要な技術を学ぶ。後に続く公衆衛生看護実習では、学生の皆さんが実際に家庭訪問や健康教育を行う。演習を効果的に実施するために、夏季休業中に予習課題を課す。教科書の該当部分を読んで予習し、授業後は授業資料や教科書を活用して復習し実習に臨むこと。予習復習時間は12時間以上。									

授業科目	行政看護管理論		科目責任者	市川 定子		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域生活集団を対象とした看護領域における看護管理に必要な基本的知識と看護職の機能を理解し、その看護管理の活動方法の基本を習得する。								
	到達目標	1. 地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）の目的と方法を理解する。 2. 事業化・システム化・施策化のプロセスを理解し、また既存事業の改善や事業化の基本的な方法を習得する。 3. 学校や事業所を単位とした保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		地方自治体を単位とした行政看護領域における看護管理の目的と管理機能、事業化のプロセス		〔講義〕 行政看護領域における看護管理の目的と管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成、人事管理、情報管理）を学習する。事業化のプロセスを学習する。					市川	
2		システム化のプロセス		〔講義〕 地域における個人および家族への支援体制づくりと地域ケアのシステム化の方法について学習する。					春山	
3・4		学校保健システムに関わる看護職の管理的活動		〔講義〕 学校を単位とした学校保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。					青木	
5・6		産業保健システムに関わる看護職の管理的活動		〔講義〕 事業所を単位とした産業保健システムに関わる看護職の管理的活動の目的と方法を学習する。					伊藤	
7		保健事業企画評価演習（1）		〔演習〕 演習オリエンテーション 演習で取り組む保健事業を選定し、事業の実施方法、成果、課題を整理することを通して、公衆衛生看護実習における保健事業の展開方法を学習する。					市川・春山・塚本・島田・青木・岸・山岸	
8		保健事業企画評価演習（2）		〔演習〕 対象とする事業の必要性を、地域診断、法的根拠、当該自治体の施策における事業の位置づけ、事業開始の契機・理由から検討することを通して、より良い保健事業とするための方法や保健活動の改善方法を学習する。					市川・春山・塚本・島田・青木・岸・山岸	
9・10		保健事業企画評価演習（3）		〔演習〕 住民・他職種を対象とした事業説明を想定して、プレゼンテーションする方法を学習する。					市川・春山・塚本・島田・青木・岸・山岸	
11・12		保健事業企画評価演習（4）		〔演習〕 プレゼンテーション、演習まとめ。					市川・春山・塚本・島田・青木・岸・山岸	
13・14		住民グループの育成および支援		〔演習〕 住民の自主グループづくりの事例を素材として、住民グループの育成および支援の方法と、地域資源として発展させる方法を学習する。					青木・江角・春山・塚本・島田・岸・山岸	
15		試験							市川	
教科書	「最新公衆衛生看護学第3版 各論2 2022年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2022年					参考書等	「保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術」岸恵美子他編、メヂカルフレンド社、2022年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「公衆衛生看護実習」					評価方法	1. 筆記試験（50%） 2. 演習態度及び演習の提出物（50%） 【評価のフィードバック方法】 1. 模範解答等を掲載する 2. 学生に講評する			
備考	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習科目の学びを踏まえて、市町村、保健所、学校や事業所における看護管理活動に焦点をあてて学習する。公衆衛生看護実習の各フィールドでの学習を振り返り、教科書の該当部分を読んで授業に臨むこと。第7回～第12回については、公衆衛生看護実習（市町）における「保健事業の展開方法に関する学習」を素材に学習を深める。演習課題への取り組みと教員の助言・指導を踏まえて復習すること。予習復習時間は12時間以上。									

授業科目	地域健康危機管理論		科目責任者	島田 裕子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割、健康危機の種別に応じた活動方法を理解し、地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。							
	到達目標	1. 地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の果たす機能・役割を理解する。 2. 地域における健康危機の種別（感染症・児童虐待・DV・自然災害、放射線災害など）に応じた、また予防期・発生時・回復期のフェーズに応じた行政看護職の活動方法を理解する。 3. 地域の健康危機管理における行政看護職の活動方法の基本を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		地域の健康危機管理とは		〔講義〕健康危機の概念、健康危機管理の概念、地域の健康危機管理体制、地域の健康危機管理における保健所保健師・市町村保健師の機能・役割を学習する。				島田	
2		感染症健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法		〔講義〕感染症健康危機の特徴、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。				春山	
3～6		感染症集団発生時における行政看護職の活動方法		〔演習〕演習オリエンテーション ケースメソッドにより感染症集団発生時の保健師活動事例をとおりて、平常時・発生時・終息後の行政看護職の活動方法を考える。				島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
7・8		自然災害健康危機管理における行政看護職の役割と活動方法		〔講義〕災害時に対応した看護職の話を聞き、行政看護職の活動方法について考える。 自然災害の種別による特徴、平常時、並びに、発生時フェーズ毎の被災者の支援ニーズと行政看護職の活動について、行政看護職の機能・役割である情報収集・支援活動・倫理的配慮・事業の企画・体制づくり・活動評価の側面から学習する。				島田	
9・10		自然災害発生時における行政看護職の活動方法		〔演習〕演習オリエンテーション ケースメソッドにより自然災害発生時の保健師活動事例をとおりて、発生時フェーズ毎の行政看護職の活動方法を考える。				島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
11・12		児童虐待とDVの予防対策と発生時対応に関わる行政看護職の役割と活動方法		〔講義〕児童虐待のアセスメント、予防対策と発生時対応にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 DVの予防対策と発生時に関わる行政看護職の役割と活動方法について学習する。				春山・島田・岸・山岸	
13・14		放射線災害に関わる行政看護職の活動方法		〔講義〕放射線災害にかかわる行政看護職の役割と活動方法について学習する。 〔演習〕放射線災害の被災者の話を聞き、放射線災害に関わる行政看護職の活動方法を考える。				島田 島田・春山・塚本・市川・青木・岸・山岸	
15		試験						島田	
教科書	「最新 公衆衛生看護学 第3版 各論1／各論2 2022年版」宮崎美砂子他編、日本看護協会出版会、2022年				参考書等	「公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動Ⅰ 第2版」岡本玲子編、医歯薬出版株式会社、2022年 「保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 第1版」岸恵美子他編、メジカルフレンド社、2022年 「みんなで取り組む災害時の保健・医療・福祉活動 1版」國井修、尾島俊之編、南山堂、2022年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「実践基礎看護学概論Ⅲ」				評価方法	1. 演習の参加態度、記録物（50％） 2. 試験（50％） 【評価のフィードバック方法】 1. 学生に講評する 2. 模範解答等を掲載する			
備考	講義と演習を組み合わせることにより、到達目標の達成を目指す。3年次後学期の公衆衛生看護活動論と公衆衛生看護実習で学習した行政看護職の活動を振り返るとともに、教科書も活用して演習前の予習課題に取り組み授業に臨むこと。授業後は授業資料や教科書を用いて復習すること。予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	看護倫理学		科目責任者	小原 泉	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	30	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療・看護の現場で直面する倫理的課題と倫理の概念について学習し、看護者として人間の生命・尊厳・生活にかかわる権利を尊重するための基本的能力を養う。							
	到達目標	1. 生命倫理の原則を理解する。 2. 看護の対象となる人間の権利を理解する。 3. 看護実践上に必要な倫理的概念を理解する（インフォームド・コンセント、アドボカシー、アカウンタビリティ、協同、ケアリング）。 4. 看護実践の場で直面する倫理的課題を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	倫理と生命倫理	[講義] 倫理および生命倫理とは何か、人間の権利と生命倫理の原則について学習する。					小原		
2	専門職の倫理	[講義] 「ICN 看護師の倫理綱領」や「看護者の倫理綱領」をはじめとする看護職の専門職倫理について学習する。					小原		
3	看護実践上の倫理的概念（1）	[講義] インフォームドコンセントおよび守秘義務・個人情報保護の概念と看護者の役割について学習する。					小原		
4	看護実践上の倫理的概念（2）	[講義] アドボカシー、責務/アカウンタビリティおよび協同/協力の概念と看護者の役割について学習する。					小原		
5	ケアの倫理	[講義] ケアとは何か、ケアの倫理について学習する。					加藤		
6	終末期ケアをめぐる倫理的課題	[講義] 終末期ケアにおける倫理的課題について学習する。					加藤		
7	先端医療をめぐる倫理的課題	[講義] 先端医療をめぐる倫理的課題について学習する。					小原		
8	看護実践における倫理的問題へのアプローチ	[講義] 看護実践上の倫理的問題の特徴と、倫理的問題を捉え調整していく方法について学習する。					小原		
9・10	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（1）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（1） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原		
11・12	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（2）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（2） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原		
13・14	看護実践における倫理的問題へのアプローチの実際（3）	[演習] グループワークとディスカッションによる事例検討（3） 看護実践における倫理的問題の事例について、生じている倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を学習する。					加藤・小原		
15	評価						小原		
教科書	指定なし				参考書等	「医療倫理学のABC 第4版」 服部健司・伊東隆雄編著、メヂカルフレンド社、2018年 「系統看護学講座別巻看護倫理」 宮坂道夫他、医学書院、2018年			
履修条件	なし				評価方法	1. 課題レポート（80%） 2. 学習態度（とくにグループワークやディスカッションの参加態度）（20%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	看護倫理学は覚える教科ではなく、思ったことを言葉にして自ら考えていくことが求められる。配付資料や参考書等を活用して予習・復習を十分行い、グループワークやディスカッションに積極的に取り組み、自らの考えを深めること。予習復習時間は、46時間以上を必要とする。								

授業科目	看護管理学		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	医療の質の向上・効率化を目指した多職種協働による看護ケア提供システムのありかた、看護者としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解し、相談、調整、教育、意思決定などの臨床実践能力を構築するための理論や方法を体系的に習得する。							
	到達目標	1. 看護管理の基礎概念および基礎的理論を理解する。 2. チーム医療メンバーの一員としてより質の高い看護ケアを提供するための仕組みを理解する。 3. 看護管理の実際を学び、看護部門を構成する看護メンバーシップの責務と役割を理解する。 4. 看護を取り巻く多様な状況から、看護管理の直面する課題とその背景を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		看護管理学の概念・基礎的理論		[講義] 看護管理の概念・基礎的理論について学習する。				成田	
2		看護組織論・看護マネジメント論（1）		[講義] 質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。				大海	
3		看護組織論・看護マネジメント論（2）		[講義] 質の高い看護を提供するためのしくみとチームマネジメント方法について学習する。				大海	
4		看護の質保証と人材育成ーキャリア形成とその支援ー		[講義] 質の高い看護を提供するための教育体制と、専門職としてのキャリア形成と組織におけるキャリア開発について学習する。				福田	
5		看護管理の実際（1）		[講義] 看護における情報の活用と管理について学習する。				下田	
6		看護管理の実際（2）		[講義] 二次医療機関や高齢者関連施設等における看護管理の実際と課題について学習する。				浜端	
7		看護管理の実際（3）		[講義] 看護サービス管理における質保証とリスクマネジメントについて学ぶ。				成田	
8		評価						成田	
教科書	「系統看護学講座 看護の統合と実践（1）看護管理」上泉和子編、医学書院、2023年				参考書等	適宜呈示する。			
履修条件	なし				評価方法	1. レポート（90％） 2. 学習態度・参加度（10％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	日々看護を提供する看護職の実践を支えているのは看護管理である。看護管理者として多様な場で活躍している方々を非常勤講師としてお迎えする。先輩の看護への熱い思いから多くを学び、自分なりの看護への夢についてレポートにしてほしいと願っている。それぞれの単元の内容について、テキストや自分で探索した文献から予習復習し、看護管理について自己の考えを深める。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	看護政策学		科目責任者	春山 早苗		単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
						時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	政策決定過程を理解するとともに、わが国の保健医療福祉政策に関わる現状と課題、看護やケアに関連した経済的・政策的課題を理解し、その課題を解決していくための視野をもてる。								
	到達目標	1. わが国の保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、保健医療福祉サービスと経済との関連を理解する。 2. 政策決定過程を理解する。 3. 国及び都道府県の保健医療福祉政策及び看護政策の現状と課題を理解する。								
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法					担当教員	
1		政策とは わが国の保健医療福祉政策の現状と課題 保健医療福祉サービスと経済		〔講義〕 政策とは何か、について学習する。 わが国の保健医療福祉政策に関わる社会経済的背景、組織運営等の現状と課題を理解する。 社会保障費や国民医療費の現状と課題を理解し、保健医療福祉サービスと経済との関連を学習する。また、費用効果、費用効用、費用便益について学習する。					春山	
2		看護制度 政策決定過程		〔講義〕 看護制度の変遷と看護に求められる社会的責務を理解する。 政策決定過程について学習する。					春山	
3		保健師助産師看護師法 看護政策の現状と課題 1		〔講義〕 保健師助産師看護師法とそれに関連する法令について学習する。また、政策決定過程の実際を学習する。 看護基礎教育の充実に向けた検討等とおして現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、看護における政策の必要性和重要性について考える。					春山	
4		看護師等の人材確保の 促進に関する法律		〔講義〕 看護師等人材確保の促進に関する法律、並びに、看護職員確保対策等の政策決定過程の実際を学習する。					春山	
5		看護政策の現状と課題 2 政策策定過程への参画		〔講義〕 看護職員の需給見通しに関する検討や新人看護職員研修、チーム医療の推進に関する検討等とおして、現在の看護に関する政策の現状と課題を学習し、政策策定過程への看護職の参画の重要性について考える。					春山	
6・7		都道府県における保健医療福祉政策と看護政策		〔講義〕 都道府県における保健医療福祉政策の現状と課題、並びに、公衆衛生活動や医療法などと看護政策との関連を考える。					櫻山	
8		試験							春山	
教科書	指定なし			参考書等	「看護法令要覧 令和2年版」日本看護協会出版会、2020年 「看護六法 令和5年版」新日本法規、2023年 「令和4年 看護関係統計資料集」日本看護協会出版会、2023年 「保健師助産師看護師法60年史」日本看護協会出版会、2009年					
履修条件	なし			評価方法	1. 筆記試験（80％） 2. 授業中に提出を求める記録物（20％） 3. 学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する					
備考	「保健医療福祉システム論」で学習したわが国のヘルスケアシステム、並びに、「看護学概論」で学習した看護の変遷と役割について、よく復習するとともに、看護あるいは看護職にかかわる政策について、マス・メディア等から最近の動向を調べて授業に臨むこと。授業後は、授業で学んだことを看護あるいは看護職にかかわる政策の動向に照らし合わせながら復習し学習を進めていくこと。予習復習時間は23時間以上。									

授業科目	国際看護論		責任者 科目 調整者 学内	江角 伸吾	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				春山 早苗	時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	国際的な看護に関する組織について理解し、看護学の発展に関する課題や国際貢献、看護の国際化に関する現状と課題について理解する。							
	到達目標	1. 国際的な看護職能組織について理解する。 2. 国際的な看護学に関する教育の現状と学術団体について理解する。 3. 看護の国際貢献について理解する。 4. 看護の国際化に関する現状と課題について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	世界の健康問題 国際看護に関わる主要概念 国際協力 国際看護の目的	[講義] 世界の健康問題及び途上国の保健医療問題の現状、開発・プライマリヘルスケア・人間の安全保障と持続可能な開発目標、国際協力諸機関と協力の仕組み等について学習する。 以上を踏まえ、国際看護の目的について考える。					江角		
2	在日外国人の現状と看護 国際的な看護職能組織 世界の看護学教育の現状と国際的学術団体	[講義] 在日外国人の現状と国際化に対応した看護のあり方や活動方法を考える。 国際看護師協会(ICN)、日本および世界における看護学教育の概要、看護の国際学術団体および学術集会について理解し、看護学の発展に関する課題を考える。					江角		
3	国際協力活動の実際1	[講義・演習] 現場で起こった外国人患者とのトラブルから病院でのコミュニケーション方法について考える。					江角		
4	看護の国際化に関する現状と課題	[講義] 来日する外国人および定住する外国人への外来・病棟での文化を踏まえた看護活動について考える。					新垣		
5	国際協力活動の実際2	[講義] 途上国における感染症対策支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角		
6	国際協力活動の実際3	[講義] 途上国におけるヘルスプロモーション支援事例から国際看護活動のあり方や方法を考える。					江角		
7	世界の感染症の動向と対策	[講義] 世界の感染症の動向と国際保健における感染症対策の重要性とその実際を理解する。					春山		
8	試験						江角		
教科書	「国際看護学 第2版」 日本国際看護学会編集、医学書院、2020				参考書等	「国際保健医療学 第3版」日本国際保健医療学会編、杏林書店、2013 「国際看護－国際社会の中で看護の力を発揮するために－」森淑江他著、南江堂、2019			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験(60%) 2. 授業中に提出を求める記録物(40%) 3. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	公衆衛生看護活動の展開方法(PDCAサイクル)を復習するとともに、教科書の該当部分を事前に読んで授業に臨むこと。授業後は、教科書や配付資料で復習し、看護が対応する問題と看護の役割を考えながら学習を進めていくこと。予習復習時間は23時間以上。グローバルな視点を持ち、看護専門職としての視野と可能性を広げることにつながる科目である。								

看護学分野

発達過程に焦点をあてた看護実践

授業科目	小児実践看護学Ⅲ	科目責任者	小西 克恵	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	30	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題を持ち、さまざまな状況にある子どもの看護を学習する。						
	到達目標	1. 小児期に特徴的な診療（治療・処置・検査・診察）上の看護援助を理解する。 2. 小児各期における特徴的なヘルスアセスメントの技術について学習する。 3. 健康課題が子どもの成長発達および生活に与える影響を理解する。 4. 健康課題をもつ子どもの日常生活の援助を理解する。 5. 子どもの健康課題が親・家族に与える影響を理解する。 6. 健康課題をもち、さまざまな状況にある子どもの看護について、倫理的側面および部門間、他職種・他機関との連携を踏まえて学習し、小児看護のあり方について理解する。						
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員
1		健康障害をもつ子どもと家族への看護（1）	【講義】 小児期に特有な健康課題をもつ子どもと家族を対象とした外来看護について学習する。					小西
2		健康障害をもつ子どもと家族への看護（2）	【講義】 小児期に特有な健康課題をもつ在宅療養中の子どもと家族の看護について学習する。					小西
3		健康障害をもつ子どもと家族への看護（3）	【講義・演習】 子どもの健康課題が家族に与える影響と家族への看護について学習する。					小西
4		小児期と手術	【講義】 小児期に手術を必要とする疾患の特徴と小児の手術の特徴を学習する。					小野
5		健康障害をもつ子どもと家族への看護（4）	【講義・演習】 周手術期に特徴的な健康障害をもつ子どもと家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					小西
6		小児期と神経・筋疾患	【講義】 小児期に特徴的な神経・筋疾患を学習する。					村松
7		健康障害をもつ子どもと家族への看護（5）	【講義・演習】 神経・筋疾患をもつ子どもおよび重症心身障害児とその家族への看護について、発達特性を踏まえた援助方法を学習する。					小西
8		健康障害をもつ子どもと家族への看護（6）	【講義・演習】 移植を必要とする子どもと家族への看護について学習する。					飯島
9		試験						小西
10～15		ヘルスアセスメントの技術（1）～（6）	【演習】 小児看護における看護過程の展開について、小児各期の発達特性や個別性を踏まえ、事例を用いてヘルスアセスメントの方法を学習する。					小西・田村・飯島
教科書	「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学1、小児看護学概論 小児臨床看護学総論」奈良間美保他著、医学書院、2021年 「系統看護学講座専門分野Ⅱ 小児看護学2、小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院、2022年			参考書等	「病気がみえる vol. 15 小児科」医療情報科学研究所、メディックメディア、2022年 「看護がみえる vol. 4 看護過程の展開」医療情報科学研究所、メディックメディア、2020年			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）」			評価方法	1. 筆記試験（60％） 2. 演習態度、演習課題レポート（40％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	小児期の発達課題やその健康特性・健康障害を理解し、看護支援に関する方法を講義で教示し、演習を通じて実践力を培う。生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ、小児実践看護学Ⅱでの学びをさらに発展させ、小児期看護実習での実践への準備となる科目である。予習復習時間は12時間以上。							

授業科目	老年実践看護学Ⅲ		科目責任者	浜端 賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	老年看護学の理論、知識、技術を踏まえ、健康の段階に応じた老年看護技術を習得する。							
	到達目標	1. 高齢者のヘルスアセスメントのための技術や評価の方法を理解する。 2. 高齢者の生活機能レベルに応じた看護を理解する。 3. 高齢患者の健康の段階を考慮した日常生活援助技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		老年看護過程の展開	[講義・演習] 老年看護過程を用いて、高齢者の看護支援について検討する。					浜端	
2・3		在宅看護過程の展開	[講義・演習] 在宅看護過程を用いて、高齢者の看護支援について検討する。					上野(ま)	
4～10		高齢者の健康課題や生活の場に応じた看護実践①	[講義・演習]・高齢者の活動と休息、移動のアセスメントと看護実践について学ぶ。 (徒手筋力テスト:MMT、転倒・骨折を予防するケアなど) ・高齢者の食事と栄養のアセスメント、咀嚼・嚥下障害のある高齢者への食事援助および口腔ケアについて学ぶ。 (義歯の介助、食事介助、口腔ケア、経管栄養、脱水観察など) ・高齢者の排泄機能のアセスメントと排泄障害のある高齢者への排泄ケアについて学ぶ。 (ストーマケア・ウロストミーケア、便秘時のケアなど) ・高齢者の皮膚機能のアセスメントと皮膚障害のある高齢者への皮膚保護ケアについて学ぶ。 (褥瘡予防方法とスケールの活用、テープの剥がし方など) ・急性期および周手術期にある高齢患者への看護について学ぶ。 (バイタルサイン測定と意識レベルの観察:瞳孔等の見方、医療機器:輸液ポンプ・電子血圧計・血糖測定等の使用方法、せん妄の評価など)					浜端・川上 太田・沼野 國府田・馬場	
11・12		高齢者の健康課題や生活の場に応じた看護実践②	[講義・演習] 在宅療養生活を支える高齢者の日常生活支援について学ぶ。 (在宅で展開する看護技術:洗髪器の作成、オムツ交換、排便・浣腸、胃瘻ケア、服薬ケア、在宅酸素など)					上野(ま)・ 沼野・國府田 馬場	
13・14		認知症高齢者への看護	[講義・演習] 認知症高齢者の理解と看護について学ぶ。					浜端・沼野 國府田・馬場	
15		試験						浜端	
教科書	「在宅看護論」石垣和子、上野まり他編、南江堂、2021年				参考書等	必要時提示する			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「生涯発達看護学概論Ⅳ(老年期)」				評価方法	1. 筆記試験(80%) 2. 課題レポート(20%) 3. 学習態度(減点法) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	既習事項を基盤に、老年臨床看護実習及び老年在宅看護実習での看護実践に関連する内容を学ぶ。教科書や配布資料などを用い、学習内容を予習・復習すること。また、演習が効率よく展開できるよう時間を意識して行動すること。さらに、援助技術の習得のため、演習室を活用し主体的に学ぶこと。試験結果の開示期間は掲示にて周知する。 予習復習時間は12時間以上。								

授業科目	生涯発達看護学概論Ⅴ (リプロダクティブヘルス)		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
					時間数	15	受講セメスター	4年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	リプロダクティブヘルス・ライツおよび女性特有の健康問題に対する看護・支援を学ぶ。							
	到達目標	1. リプロダクティブヘルス・ライツの概念を理解する。 2. ライフサイクルの各期に応じたリプロダクティブヘルス・ライツに関する健康問題と看護を学ぶ。 3. ライフサイクルにおける女性の健康問題と看護・支援を学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		リプロダクティブヘルス・ライツの概念	[講義] リプロダクティブヘルス・ライツの概念および、女性の健康支援の必要性・あり方を考える。					成田	
2		思春期女性の健康問題と看護	[講義] 思春期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。					成田	
3		成熟期女性の健康問題と看護	[講義] 成熟期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。					成田	
4		更年期女性の健康問題と看護	[講義] 更年期女性の健康問題および、支援の必要性と看護について学ぶ。					成田	
5		妊娠の意思決定および、望まない妊娠による健康問題	[講義] ・受胎調節と避妊法の基本について学ぶ。 ・望まない妊娠による健康問題について学ぶ。 ・妊娠の意志決定の支援について学ぶ。					成田	
6		不妊とその看護	[講義] 不妊および、本人と家族の看護について学ぶ。					成田	
7		性感染症とその予防	[講義] ・性感染症による健康問題について学ぶ。 ・性感染症予防の支援について学ぶ。					成田	
8		試験						成田	
教科書	指定しない				参考書等	「母性看護学Ⅰ（概論）」有森直子編、医歯薬出版、2022 適宜提示する			
履修条件	なし				評価方法	1. 筆記試験（60％） 2. 事後課題（35％） 3. 学習態度（5％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	3年生までの学習内容が基礎になっているため、解剖・病態・発達段階とホルモン変化の復習をしてから望むこと。 1回ごとに学習課題が異なるため、講義内容および指定した内容を復習すること。 予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	助産学概論		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	助産および助産師活動の概要について学習する。							
	目標	1. 助産師および助産師活動の概念を理解する。 2. 母子保健と助産の変遷について理解する。 3. 性・生殖と人権について理解する。 4. 生命倫理について理解する。 5. 助産師の国際活動と海外の母子保健の課題を理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1	助産の概念、助産師とは	〔講義〕 助産の概念、助産師の業務範囲、助産師の役割など、助産学の基本的概念について理解する。	川野						
2	助産師活動の概要、母子保健と助産の変遷	〔講義〕 分娩の歴史と助産の変遷、保健医療の推移について学ぶ。	角川						
3	性・生殖の健康と人権	〔講義〕 助産実践との関連で、性と生殖の健康と人権について理解する。	川野						
4	助産師の国際活動と海外の母子保健	〔講義〕 助産師の国際活動と海外の母子保健について学ぶ。	谷田部						
5～7	助産に関わる生命倫理	〔講義・演習〕 助産に関連する倫理、助産師の倫理綱領、助産実践に関連する生命倫理について理解する。	川野						
8	試験		川野						
教科書	指定しない			参考書等	「助産学講座1 助産学概論」我部山キヨ子・安達久美子編集、医学書院、2022年 「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」日本看護協会出版会、2022年 他 適宜提示する				
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「周産期看護実習」			評価方法	1. 筆記試験（50%） 2. 事後課題（30%） 3. 演習への参加状況（15%） 4. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する				
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 保健師およびNICU 就職希望者など、助産師希望学生以外の就職の場合も役立つ内容である。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 各自で資料を収集し、積極的に講義・演習に参加すること。毎回の講義資料に基づいて復習し、次の講義に備えること。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	基礎助産学Ⅰ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	妊娠期・分娩期の生理と病態について学習する。							
	到達目標	1. 妊娠期の生理的变化と母体の適応について学ぶ。 2. 妊娠経過および妊娠期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 胎児の成長・発達および胎児付属物の機能について学ぶ。 4. 胎児および胎児付属物の正常からの逸脱について学ぶ。 5. 分娩の生理を学ぶ。 6. 分娩期の正常からの逸脱について学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		妊娠期の生理的变化		〔講義〕 妊娠の生理、妊娠の診断、妊娠期の心身の変化について学ぶ。				上野(知)	
2		妊娠期の正常からの逸脱と対応		〔講義〕 妊娠経過の診断、妊娠期の各種検査、正常からの逸脱の予防、妊娠経過中に起こる異常と対応、妊娠の合併する異常と対応について学ぶ。				川野	
3		胎児の成長と発育 胎児・胎児期の正常からの逸脱 胎児付属物の構造・機能と異常		〔講義〕 胎児の成長と発育について学ぶ。胎児の正常からの逸脱、胎児付属物の構造・機能・役割、胎児付属物に関する異常と診断方法について学ぶ。				川野	
4・5		分娩の生理		〔講義〕 分娩の概念、分娩経過、分娩の3要素、分娩機序について学ぶ。				川野	
6・7		分娩期の正常からの逸脱と対応		〔講義〕 分娩経過の診断、分娩経過の異常（分娩停止・分娩遷延）、娩出力の異常（微弱陣痛・過強陣痛）、産道の異常（骨産道・軟産道）、分娩期の正常からの逸脱の予防と異常への対応について学ぶ。				川野	
8		評価						川野	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年			参考書等	「病態・治療論〔13〕産科婦人科疾患」百枝幹雄他、南江堂、2019年				
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」			評価方法	1. 筆記試験（80％） 2. 課題レポート（15％） 3. 学習態度（5％） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する				
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。毎回の講義で学んだことを復習して、次回の講義に臨むこと。・予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	基礎助産学Ⅱ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	産褥期・新生児期の生理と病態について学習する。							
	到達目標	1. 産褥期の生理的变化・経過について学ぶ。 2. 産褥期の正常からの逸脱について学ぶ。 3. 新生児の生理的变化について学ぶ。 4. 新生児および新生児期の正常からの逸脱について学ぶ。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2		産褥期の生理的变化、 産褥期の局所的变化	〔講義〕産褥期の身体的変化、心理・社会的変化について理解し、 進行性変化と退行性変化および、正常な変化を促進する要因について学ぶ。					川野	
3・4		産褥期の正常からの逸脱と対応	〔講義〕産褥期の正常からの逸脱の予防、産褥期に起こりやすい異常と対応について学ぶ。					川野	
5－7		新生児の生理的变化 新生児・新生児期の正常からの逸脱と対応、 ハイリスク新生児・低出生体重児のケア	〔講義〕周生期にある胎児・新生児の生理的变化、子宮外生活への適応について学ぶ。 (新生児の異常徴候、新生児期の正常からの逸脱と観察、ハイリスク新生児・低出生体重児と家族のケア)					川野	
8		試験						川野	
教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅲ（新生児期・乳幼児期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年				参考書等	「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験（95%） 2. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 生涯発達看護学概論Ⅰおよび周産期実践看護学Ⅰ・Ⅱの関連する部分について、復習してから講義に臨むこと。 毎回の講義前に関連する内容について教科書を読んでおくこと。また、毎回の講義で学んだことを復習して、次の講義に臨むこと。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	基礎助産学Ⅲ		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	1 5	受講セメスター	4 年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	母子と家族の健康、母子と家族の心理的側面および、妊娠・出産に関わる社会文化的側面について学習する。							
	到達目標	1. 母性・父性の発達と家族役割の変化について理解する。 2. 周産期女性の心理について理解する。 3. 母子の健康に影響を与える要因について理解する。 4. 母子の心理および、社会的側面に影響を与える要因について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1・2		母子の健康と生活に影響を与える要因	[講義] 母子の健康と栄養、母子と免疫、妊娠中の薬剤の影響、遺伝性疾患、妊娠中の感染症・性感染症など、母子の健康に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
3		母子と家族の心理的・社会文化的側面に影響を与える要因	[講義] リプロダクティブヘルス／ライツ、ジェンダーと出産、女性への暴力、児童虐待など、母子の心理および社会文化的側面に影響を与える要因について学ぶ。					成田	
4		母性・父性とは、妊娠・出産による家族の変化、バースプランとバースレビュー	[講義] 女性と家族にとっての妊娠・出産・育児体験と、生活の変化について学習する。 バースプラン、バースレビューについて学ぶ。					成田	
5～7		母子の健康と生活への支援（小集団指導）	[演習] 母子の健康生活を支援するための小集団指導の方法について実践的に学ぶ。					成田	
8		評価							
教科書	指定しない				参考書等	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ（妊娠期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「助産学講座7助産診断・技術学Ⅲ（分娩期・産褥期）」医学書院、2021年 「助産学講座8助産診断・技術学Ⅳ（新生児期・乳幼児期）」横尾京子編集、医学書院、2021年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 各回の小テスト・事後課題の提出（75%） 2. 課題レポート（20%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 この科目の予習として、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の心理・社会的側面の範囲を復習してから受講し、講義内容を復習し、理解して試験に臨むこと。予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅰ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4 学年前学期	
学習目的と目標	目的	妊娠期の助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。							
	到達目標	1. 妊娠の診断について学ぶ。 2. 妊婦、胎児および家族の健康状態のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊婦、胎児および家族に必要な健康教育について理解する。 4. 妊婦と家族への健康教育に必要な基礎的技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		妊娠の診断 妊婦のフィジカルアセスメントと助産診断	〔講義〕 妊娠の確定診断、妊娠各期の経過を診断するためのフィジカルアセスメント、妊娠各期の助産診断に必要な項目について学ぶ。					川野	
2		妊婦のフィジカルアセスメントの実践	〔講義・演習〕 妊婦のフィジカルアセスメントについて学ぶ。 (妊娠の診断、健康診査、妊婦のフィジカルアセスメント)					上野(知)・川野 成田・角川 谷田部・二宮 前田	
3・4		妊娠期の異常と妊娠合併症の診断と対応	〔講義〕 妊娠期の異常や合併症の診断(妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病など)と対応について学ぶ。					高橋	
5		妊娠期の助産過程の展開	〔演習〕 正常経過にある妊婦とその家族の支援方法および、妊娠各期の助産過程の展開について学ぶ。					川野	
6・7		妊婦と家族への健康教育	〔演習〕 妊婦と家族への健康教育の意義および実践について学ぶ。					川野	
8		試験						川野	
教科書	「助産学講座6助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、2020年				参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験(85%) 2. 課題レポート(10%) 3. 学習態度(5%) 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅱ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 あり
					時間数	30	受講セメスター	4 学年 前学期	
学習目的と目標	目的	分娩期および出生直後の新生児に対する助産実践に必要な知識を理解し、アセスメントと支援の基礎的技術を習得する。							
	到達目標	1. 分娩進行に伴う身体・心理的变化について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 2. 胎児のウェルネスの指標について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。 3. 妊娠期・分娩期の助産過程に必要な知識と技術を習得する。 4. 分娩経過中の産婦と家族への支援について理解する。 5. 分娩介助に必要な基礎的技術を習得する。 6. 出生直後の新生児の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、そのアセスメントに必要な基礎的技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		分娩進行に伴う身体・心理的变化のアセスメント	〔講義〕 分娩各期の分娩経過に伴う身体・心理的变化のアセスメントとケアについて学ぶ。 ハイリスク分娩の予防・支援について学ぶ。					川野	
2		分娩経過中の産婦と家族の支援	〔講義〕 分娩経過中の産婦と家族へのアセスメントと支援について学ぶ。					川野	
3・4		母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント（超音波断層法・胎児心拍モニタリング）	〔講義〕 母体と胎児のウェルネスの指標として、超音波検査法と胎児心拍モニタリングを学び、母体および胎児の評価について学ぶ。					桑田	
5・6		母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメント	〔講義〕 分娩経過中の母体と胎児のウェルネスの指標とアセスメントについて学ぶ。					川野	
7～9		分娩期の助産過程の展開	〔講義・演習〕 分娩期の母体と胎児のウェルネスの評価、産婦と家族への支援について、事例をもとに助産過程を展開し学ぶ。					上野（知）・川野・二宮・谷田部・前田	
10～13		分娩介助に必要な基礎的技術とその実践	〔講義・演習〕 分娩介助に必要な基礎的技術について学ぶ。					上野（知）・川野・成田・角川・二宮・谷田部・前田	
14・15		出生直後の新生児のアセスメントとケア	〔講義・演習〕 出生直後の新生児の成長・発達・成熟度の診断と胎外生活への適応の診断を含む分娩介助に必要な基礎的な基礎技術を習得する。					二宮・川野	
		試験							
教科書	「助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ（分娩期・産褥期）」我部山キヨ子・武谷雄二編集、医学書院、2021年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年 「産婦人科診療ガイドライン 産科編2020」日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、日本産科婦人科学会事務局、2020年 新生児蘇生法テキスト第4版 細野茂春、メジカルビュー、2020年				参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「分娩のしくみと介助法」竹田省、高橋眞理編集、メジカルビュー社、2016年 「図説 CTG テキスト アドバンス」中井章人、メジカルビュー社、2017年 「分娩助産学 第2版」進純郎、医学書院、2014年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験（85%） 2. 課題レポート（10%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 レポート：学生に講評する テスト：模範解答等を掲載する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された情報だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。演習で提示する課題が時間内に終了しない場合には、自宅での課題学習となる。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。 予習復習時間は12時間以上とする。								

授業科目	実践助産学Ⅲ		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	30	受講セメスター	4 学年 前学期	
学習目的と目標	目的	早期産褥・新生児期の母子と家族について理解し、そのアセスメントと支援の基礎的技術を習得する							
	到達目標	1. 早期産褥期の身体・心理的变化とその支援について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 2. 産婦と新生児および家族の心理・社会的変化とその支援について理解する。 3. 早期産褥期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 4. 新生児期の生理的变化と胎外生活への適応について理解し、アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 5. 新生児期の正常からの逸脱の早期発見・治療・予防・支援について理解する。 6. 母子分離の際の母子と家族の理解とその支援について考える。							
回数 (1回90分)		学習課題		学習内容ならびに方法				担当教員	
1		分娩直後の産婦の正常からの逸脱のアセスメントとケア		【講義】 分娩直後の産婦のアセスメントとケアについて学ぶ。				川野	
2		産褥早期の身体的変化、心理・社会的変化		【講義】 産褥早期の産婦の身体的変化、心理・社会的変化について学ぶ。(マタニティブルーや産褥精神障害を含む)				川野	
3・4		分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応		【講義】 分娩直後から産褥早期に起こる異常の診断と対応について学ぶ。				川野	
5		母子分離された母子と家族の理解とその支援		【講義】 母子分離となった母子と家族の理解とその支援について学ぶ。				川野	
6		母乳育児支援と授乳中に起こりうるトラブル		【講義】 母乳育児支援と授乳中に起こりやすいトラブルとケアについて学ぶ。				上野 (知)	
7		産褥期進行性変化のフィジカルアセスメント		【演習】 母乳育児支援の実際・フィジカルアセスメントについて学ぶ。				上野 (知)	
8		産褥期退行性変化のフィジカルアセスメント		【演習】 産褥期の退行性変化のフィジカルアセスメントについて学ぶ。				川野	
9・10		新生児の生理的变化と胎外生活への適応		【講義】 早期新生児期の生理的变化、胎外生活への適応について学ぶ。				川野	
11・12		新生児期の正常からの逸脱を踏まえた新生児のフィジカルイグザミネーション		【演習】 新生児期の正常からの逸脱を踏まえ、早期新生児期の正常経過のアセスメントに必要なフィジカルイグザミネーションの基本的技術を習得する。				川野	
13・14		出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応		【講義】 出生直後に起こる新生児の異常の診断と対応について学ぶ。				矢田	
15		試験						川野	
教科書	「助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期」横尾京子編集、医学書院、2021年 「今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改定第4版」北川眞理子編集、南山堂、2019年				参考書等	「臨床産科学テキスト」長谷川潤一、メディカ出版、2019年 「母乳育児支援スタンダード第2版」日本ラクテーションコンサルタント協会、医学書院、2015年 「新生児学入門第5版」仁志田博司、医学書院、2018年			
履修条件	単位を取得していることが必要な科目 「助産学概論」				評価方法	1. 筆記試験 (95%) 2. 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 助産学実習での助産実践につながる科目であり、講義内で提示された内容だけではなく、多様な資料から自ら学び、実習での展開に向けて準備することが必要である。教科書の各回に関連する部分を事前に読んで、授業に参加するとともに、事後学習を行うこと。予習復習時間は12時間以上とする。								

授業科目	実践地域助産学		科目責任者	川野 亜津子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	15	受講セメスター	4年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	地域における母子保健活動の意義と実践について理解し、地域につなげるケアの基本的技術を習得する。							
	到達目標	1. 地域における母子保健活動の意義と活動の場について理解する。 2. 助産所や自宅分娩の利点と課題を理解する。 3. 助産師による地域の子育て支援について理解する。 4. 産褥期の退院に向けた健康教育・保健指導の意義を学ぶ。 5. 産褥期の健康教育・保健指導に必要な基礎的技術を習得する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		地域における母子保健活動の意義と実際	[講義] 地域母子保健の概念と意義および、地域母子保健活動の歴史、法的基盤、助産師による様々な場での母子保健活動の実際について学ぶ。					川野	
2		退院後に向けた母子の生活の支援	[講義] 医療的ケアの必要な児の退院後に向けた退院調整および退院後の母子と家族への支援について学ぶ。					成田	
3・4		助産師による地域の子育て支援とその課題	[講義・演習] 助産師による地域の子育て支援の実際、必要性和課題について学ぶ。					藤川	
5～7		育児期の健康教育・保健指導の実践	[演習] 育児期にある母子の健康教育・保健指導について、実践的に学ぶ。					川野	
8		評価						川野	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2022年 「助産学講座1 助産学概論」我部山キヨ子・安達久美子編集、医学書院、2022年				参考書等	適宜提示する。			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」				評価方法	1. 事後課題（50%） 2. 課題レポート（45%） 3. 学習態度（5%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選抜方法は別途周知する。 周産期看護実習での体験を振り返り、毎回の講義・演習に積極的に参加すること。 予習復習時間は23時間以上とする。								

授業科目	助産管理学		科目責任者	成田 伸	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	1 5	受講セメスター	4 年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	助産師の活動に関わる管理の概念とその実際について理解し、助産師活動の場と責任について学ぶ。							
	到達目標	1. 助産管理の概要について理解する。 2. 母子に対する社会保障について理解する。 3. 助産所と病産院の助産管理の役割について理解する。 4. 災害時の助産師の役割と活動について理解する。 5. 医療事故と助産師業務について理解する。							
回数 (1回90分)		学習課題	学習内容ならびに方法					担当教員	
1		助産管理の概要 医療保険制度と母子に対する社会保障制度	[講義]・助産管理の目的と概要を学習する。 ・日本の医療保険制度と母子に対する社会保障制度について学ぶ。					成田	
2		助産所の業務と管理	[講義]・助産所での妊娠・分娩管理、その役割と課題について学ぶ。 ・助産所の業務と管理および、助産業務ガイドラインについて学ぶ。					小嶋	
3		産科外来と助産師外来	[講義]・助産師外来における助産師の主体的な妊婦・褥婦支援について学ぶ。					小嶋	
4		病院での助産管理	[講義]・病棟における助産管理について学ぶ。 ・産科病棟、分娩棟、MFICU それぞれの機能と役割、その中での助産実践について学ぶ。					田中	
5～7		助産実践におけるリスクマネジメント (災害時の助産師の役割と活動／助産業務と医療事故)	[講義]・助産実践におけるリスクマネジメントの概要を学ぶ。 ・災害時の助産師の役割と母子ケアについて学ぶ。 ・助産業務に関連する医療事故と助産師の業務責任について学ぶ。					成田	
8		試験						成田	
教科書	「助産師基礎教育テキスト 第3巻 周産期における医療の質と安全」成田伸編、日本看護協会出版会、2023				参考書等	「助産業務ガイドライン2019」日本助産師会編集、2019			
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目「助産学概論」				評価方法	1. 事後課題 (60%) 2. 課題レポート (35%) 3. 学習態度 (5%) 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選考方法は別途周知する。 周産期に関連する法律・制度・看護管理を復習してから受講し、講義内容を理解して試験に臨むこと。 予習復習時間は23時間以上とする。								

看 護 学 分 野

各 看 護 実 習

授業科目	周産期看護実習	科目責任者	角川 志穂	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ周産期における母子とその家族への看護について学ぶ。						
	到達目標	1. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族の生活を理解する。 2. 入院している母子に対する基礎的援助について理解する。 3. 受持ち母子をアセスメントし、必要な看護援助を考え、看護過程を展開する。 4. 地域での看護職による母子への支援の必要性和その実際を理解する。 5. 妊娠・出産・育児期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について考える。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	3年次前学期 1クール2週間で、全5クール							
実習方法	学生は自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターの産科病棟にて母子1組を受け持ち、ケース受け持ち実習を1週間行う。もう1週間は、機能別実習として、自治医科大学附属病院または附属さいたま医療センターのNICUや産科病棟・産科外来にて妊娠期・分娩期・新生児期の母子とその家族への支援実習を行うとともに、地域での育児支援実習を行う。							
実習内容	初日は、自治医科大学附属病院や附属さいたま医療センター、地域での育児支援施設での実習について、全体およびグループ毎にオリエンテーションを行う。また、周産期の母子への看護に関する技術と知識の確認を行う。さらに、本院で実習する学生は、自治医科大学附属病院での病棟オリエンテーションを臨地実習指導者より受ける。 詳しい実習内容は「周産期看護実習要項」を参照。 ケース受け持ち実習では、母子をケースとして受け持ち看護を展開すると共に、適宜ショートカンファレンスを行い、健康課題を持つ周産期における母子と家族への看護について理解を深める。 機能別実習では、様々なリスクを持つ、妊娠期・分娩期・新生児期にある母子と家族への看護について、地域での育児支援を含んで、多様な側面から学ぶ。 最終日は各自が作成したレポートをもとにカンファレンスを行い、実習における学びの統合を図る。							
担当教員	母性看護学教員 自治医科大学附属病院および自治医科大学附属さいたま医療センター 臨地実習指導者 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動、さいたま助産院、陽だまり助産院の担当助産師）							
実習場所	自治医科大学附属病院、自治医科大学附属さいたま医療センター 一般社団法人栃木県助産師会（下野市を中心とした活動、助産所での実習含む）、さいたま助産院、陽だまり助産院							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「周産期実践看護学Ⅰ」 「周産期実践看護学Ⅱ」			評価方法	周産期看護実習実習評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）および周産期実践看護学ⅠⅡでの学びを統合し、周産期における母子とその家族への看護について、実践を通して看護展開を学んでいく。さらに、周産期にある母子とその家族に対する支援に必要な他職種との連携と看護職の役割について、さまざまな病棟や地域での実習およびショートカンファレンス等を通して学ぶ。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。 予習復習時間として4時間以上を使うこと。							

授業科目	小児期看護実習		科目責任者	田村 敦子	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ子どもの看護の展開を学ぶ。							
	到達目標	1. 入院している子どもの生活を理解する。 2. 入院している子どもおよび親・家族についてアセスメントし、必要な援助を明らかにする。 3. 入院している子どもおよび親・家族への援助を計画し実践を試みる。 4. 行った実践を評価し、さらなる看護の展開を試みる。 5. 医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割を理解する。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	2週間								
実習方法	学生は1グループ7名程度で、入院および外来に通院する子どもを対象に実習を行う。								
実習内容	初日は、自治医科大学とちぎ子ども医療センターでの実習について、全体およびグループ毎に実習オリエンテーション、病棟オリエンテーションおよび患者選定を行う。 各実習場所における実習内容と実習方法は、「小児期看護実習要項」を参照。 最終日は、カンファレンスを持ち、実習全体の振り返りを通して学びを統合する。								
担当教員	小児看護学の全教員（田村、小西、飯島、臨時教員） 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 臨地講師								
実習場所	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 2 A病棟、3 A病棟、4 A病棟、外来 栃木県立岡本特別支援学校 おおるり分教室								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「小児実践看護学Ⅰ」 「小児実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「小児実践看護学Ⅲ」				評価方法	1. 実習態度 2. 実習記録物、実習課題レポート 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	生涯発達看護学概論Ⅱおよび小児実践看護学Ⅰ～Ⅲでの学びを統合し、健康障害や入院によってさまざまな状況にある子どもと親・家族に対する看護について実践を通して看護展開を学ぶ。さらに、子どもと親・家族を取り巻く保健・教育・福祉などの各組織の機能と組織間の連携・調整についてカンファレンスなどを用いて学ぶことで、医療チームの一員として健康課題をもつ子どもおよび親・家族に対する看護職の役割について学ぶ。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。予習復習時間は4時間以上。								

授業科目	成人期健康危機 看護実習		科目責任者	古島 幸江		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件 あり
						時間数	90	受講セメスター	3年次 前学期	
学習目的と 到達目標	目的	健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。								
	到達目標	1. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 2. 看護師-患者関係を形成し、自らの実践を常に問いながら看護を展開する。 3. チーム医療を担う一員として、看護実践上の倫理的問題に対する気づきや考え、態度を育む。 4. 看護専門職として、先見性をもつ看護を提供するための探究的姿勢を磨く。								
学習内容ならびに方法										
実習期間		2週間								
実習方法		主に、健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受けもち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。 また、高度医療を行なっている検査・治療部門で実習を展開することもある。								
実習内容		1. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族の特性、およびおかれている背景を理解する。 2. 健康危機を引き起こしやすい／引き起こしている健康課題をもつ成人とその家族を対象として看護を行うために必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 3. 立案した看護計画に基づいて、チーム医療を担う一員として看護実践を行う。 4. 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 5. 各種カンファレンス（ショートカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス、チーム医療に関するカンファレンス）を行い、相互に学習を深める。 ＊詳細は成人期健康危機看護実習要項を参照する。								
担当教員		成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他								
実習場所		自治医科大学附属病院における健康危機に関する主に成人系の病棟								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」					評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、成人実践看護学Ⅰ、成人実践看護学Ⅱを基盤に展開する実習科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学など、基礎科学分野の知識を十分復習した上で臨むこと。 実習中は、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢を持てるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的に学習をしていくこと。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。									

授業科目	成人期長期療養看護実習		科目責任者	長谷川 直人	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培う。							
	到達目標	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人の健康の回復と生活への適応を支援する。 2. 看護師-患者関係を築き、自分の実践を常に問いながら看護を展開する。 3. 看護実践上の倫理的問題に対する考えや態度を育む。 4. 看護専門職として、成人のセルフケア能力を高めるための支援をするうえでの探究的姿勢を磨く。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	2週間								
実習方法	主に、長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族を1名以上受け持ち、看護過程を活用して実習を行う。1グループは7名程度の構成とする。実習中は各種カンファレンスに参加し、相互に学習を深める。また、患者の長期療養の支援に関わる外来・検査・治療部門で実習を展開することもある。								
実習内容	1. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族の特性を理解する。 2. 長期的な療養を要する健康課題をもつ成人とその家族への看護を行うために、看護師-患者関係を構築しながら必要な情報を集め、アセスメントを行い、看護上の問題を明確にし、看護計画を立案する。 3. 立案した看護計画に基づいて、成人とその家族が健康課題と向き合い、健康の回復と生活への適応に取り組めるよう支援する。 4. 成人とその家族の反応をもとに、看護計画の評価をし、立案した看護計画を修正する。 5. 各種カンファレンス(ショートカンファレンス、倫理的問題に関するカンファレンス、ケースカンファレンス、まとめのカンファレンス)に参加し、相互に学習を深める。 *詳細は成人期長期療養看護実習要項を参照する。								
担当教員	成人看護学 学科目教員 自治医科大学附属病院 臨地講師 他								
実習場所	自治医科大学附属病院における長期療養に関する主に成人系の病棟								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「成人期継続療養看護実習」 「成人実践看護学Ⅱ」 「成人実践看護学Ⅲ」 「成人実践看護学Ⅳ」				評価方法	1. 実習内容、態度、目標の達成度 2. 実習記録 3. 各種カンファレンスへの参加状況及び発言内容 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目は、成人実践看護学Ⅲ、成人実践看護学Ⅳを基盤に展開する科目である。科目履修に向け、上記の履修条件科目に加え、特に生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）、チーム医療論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、基礎薬理学、臨床薬理学、臨床検査学、病態学概論、病態学各論、栄養学ほか、基礎科学分野の知識を十分に復習した上で臨む。 実習では、自身の健康管理に留意しながら、受け持つ成人とその家族への安全・安楽を配慮した行動と倫理的態度、日々の学習課題に真摯に向き合う姿勢をもてるよう、指導教員と学習内容を確認しつつ、主体的・自律的な学習活動と、実習に向けた十分な予習と復習を求める。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								

授業科目	老年臨床看護実習	科目責任者	浜端 賢次	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	90	受講セメスター	3年次前学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の看護の展開を学ぶ。						
	到達目標	1. 疾病や治療、ケアが老年期にある人にどのような影響を与えているかを理解する。 2. 老年期にある人の発達段階、健康状態、生活史・背景、価値観などを考慮した援助の必要性がわかる。 3. 退院後の生活に向けての援助の必要性がわかり、高齢者やその家族が安心して家庭に戻れるような援助ができる。 4. 高齢者が退院後も必要な医療が継続されるように、他部門・他機関との協働の必要性を理解する。 5. 援助を実施する時には、倫理的な配慮を行う。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	実習場所及び学内での演習を合わせて10日間							
実習方法	病院実習では、疾病や治療および加齢現象が、高齢者の生活にどのような影響を与えているかを理解し、在宅療養に向けて必要な支援の実践を学ぶ。 ・自治医科大学附属病院では、高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 介護保険施設実習では、認知症や加齢・疾患に伴う生活機能障害を理解し、在宅療養に向けてその人らしい生活が送れるよう、維持期のリハビリの実践や、多職種連携の実践を学ぶ。 ・介護保険施設では、入所・通所部門で実習を展開する。							
実習内容	自治医科大学附属病院 1 受け持ち患者の加齢に伴う変化、疾病や治療、心身機能、身体構造の障害レベル、生活史、入院前の生活状況、家族関係を把握し、退院後の療養生活を支援する。 2 上記を踏まえてアセスメントを行い、看護課題を特定し、エンパワーメントに着目した看護計画を立案し、意図的・体系的な看護を実践し、評価する。 3 適宜カンファレンスを行い、指導者ならびに教員と看護の方向性を確認しながら看護を展開する。さらに、受持ち患者を通じて学生相互の学習を深める。 介護保険施設 1 入所者の特徴や加齢現象、疾病や治療、認知症などから生じた生活機能障害を踏まえ、エンパワーメントに着目した高齢者と家族への支援方法を検討する。 2 多職種によるチームアプローチの実践から、看護師と多職種の役割の実践を学ぶ。							
担当教員	老年看護学教員							
実習場所	自治医科大学附属病院（6W、7W、8W、7E、7A、7B） 介護保険施設 ・介護老人保健施設 しらさぎ荘（宇都宮市）、白楽園（宇都宮市）、かみつが（鹿沼市）わたのみ荘（真岡市）、晃南（小山市） ・介護老人福祉施設 いずみ苑（宇都宮市）、敬祥苑（宇都宮市）							
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「老年実践看護学Ⅲ」			評価方法	1. 実習記録物・実習課題レポートの提出状況（80%） 2. 実習態度（10%） 3. 自己評価の実施状況（10%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	これまでの講義・実習で学んだ知識・技術を想起し、高齢者の尊厳を守り、指導者・教員とともに学習内容を確認しながら、自律的・主体的に取り組むことを重視する。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。予習復習時間は4時間以上。							

授業科目	老年在宅看護実習		科目責任者	浜端 賢次	単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
					時間数	90	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	健康課題をもつ老年期にある人の在宅における生活に及ぼす影響を理解する。							
	到達目標	1. 老年期の多様な健康課題について理解し、在宅での生活をおくるうえでの健康障害について理解する。 2. 健康上の課題および健康障害を抱えながら自宅で生活している高齢者とその家族への支援方法を理解する。 3. 健康障害を抱えながら自宅で療養生活をしている高齢者とその家族を支援する保健医療福祉体制とその資源を活用した看護職の役割・機能及び援助方法を理解する。							
学習内容ならびに方法									
実習期間	実習場所および学内での演習を合わせて、10日間								
実習方法	健康障害が在宅療養生活に及ぼす影響と支援方法を理解するために、訪問看護ステーションにおいて、在宅療養者宅に訪問看護師と同行訪問し、看護観察と看護実践を行う。 学内においては、それぞれの学びを共有し、様々な訪問看護ステーションの規模、活動内容など、組織のあり方、理念、地域に期待されている役割についての特徴や違いを知り、訪問看護活動を幅広く理解する。								
実習内容	1. 訪問看護ステーション 1) 同一の在宅療養者宅（継続事例）を複数回訪問し、在宅療養者が抱える健康障害をアセスメントする。 さらに、健康障害が在宅療養者の療養生活に与える影響と家族機能をアセスメントする。 2) 訪問看護ステーションの看護活動の現状から、看護の役割と必要な看護実践について検討する。 3) 在宅療養者と家族を取り巻く現状を把握し、介護保険/医療保険制度や地域の社会資源等への関心を深め、今後の課題を考察する。 2. 学内での演習 中間カンファレンスは、グループに分かれ、実習先の訪問看護ステーションの特徴をそれぞれ発表し合い、多様な訪問看護ステーションの現状を理解する。さらに、継続事例を提示して、訪問時の様子、その後のアセスメント（継続事例の療養環境や家族、健康障害の程度、ニーズや支援など）した内容を発表・共有し、意見交換しながら、2回目の訪問看護活動における看護計画等に活かす。 また、最終日の継続事例発表会では、継続事例の健康障害・ニーズのアセスメント、ならびに立案した看護計画と実践した援助及び最終的な評価結果を発表し、意見交換する。								
担当教員	老年看護学教員・地域看護学教員 ほか								
実習場所	・訪問看護ステーション（県内16ヶ所）								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「老年実践看護学Ⅰ」 「老年実践看護学Ⅱ」 「老年実践看護学Ⅲ」				評価方法	1. 実習記録物・実習課題レポートの提出状況（80%） 2. 実習態度（10%） 3. 自己評価の実施状況（10%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	本科目の予習として、これまでの講義・実習で学んだ知識、在宅療養者への支援を継続するために必要な看護技術（バイタルサイン測定方法など）、在宅療養生活を継続するために必要な介護保険制度や訪問看護制度等を学んでおく。 実習後には、継続事例発表会で学んだ内容の復習を行い、今後の在宅看護に繋がる継続学習を行う。予習復習時間は4時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								

授業科目	精神保健看護実習		科目責任者	永井 優子		単位数	2	必修選択別	必修	履修条件あり
						時間数	90	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	精神疾患および精神障害をもちながら生活している人とその家族を全人的に理解し、地域資源を活用して支援する方法を理解する。								
	到達目標	1. 精神障害者を生活者として理解し、精神障害が生活に及ぼす影響を理解する。 2. 精神の健康上の課題および精神障害をもちながら生活していく人およびその家族を支援する方法を理解する。 3. 精神障害を持つ人が地域資源を活用できるように援助する方法を理解する。								
学習内容ならびに方法										
実習期間	2週間									
実習方法	1) 複数のグループを編成し、実習施設の特性を考慮して、学生が自由に考え、自分の判断で工夫して、組織内外の多職種と協働する。 2) 地域で療養生活を営む精神障害をもつ人と家族を対象として担当し、対象者の状態と生活に即し、集団力動を考慮して個別および施設利用者集団の看護を実践する。									
実習内容	1) 精神および身体的な健康課題について、病態および心理社会的な環境要因についてアセスメントし、精神障害をもつ人とその家族への援助を計画・実施・評価する。 2) 精神障害をもつ人およびその家族の生活歴、それぞれの希望、そして生活上の困難と工夫を踏まえ、回復過程に応じた基本的な看護援助を計画・実施・評価する。 3) 精神障害をもつ人自身およびその家族について、生活者という視点から、利用可能な社会資源・制度等の利用と組織内外の人的資源と協働することも含めた看護計画を立案・実施・評価する。 4) 精神障害をもつ人やその家族、そして当事者組織を含めたつながりを持つ人々の精神的・身体的・社会的な健康を維持・増進する看護援助について、計画・実施・評価する。									
担当教員	永井、半澤、路川、高崎、非常勤教員									
実習場所	県内の複数の精神科デイケア施設および精神障害者が利用する通所型福祉施設									
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 ・単位取得見込みが必要な科目 「精神看護方法」 「地域精神看護方法」					評価方法	1. 実習の参加状況と学習態度 2. 対象者とのかかわり 3. 実習記録および報告の内容および提出状況 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	「地域精神看護方法」で行う本実習の記録用紙を活用した事例演習と講義内容は、本実習の準備となるため、同一年度に履修する必要がある。「生涯発達看護論」、「グループアプローチ」、「実践基礎看護学概論Ⅱ」、「精神看護方法」の復習を十分にし、実習の前および期間内に e-learning による課題を行う必要がある。本実習では、身体上の課題を併せもつ青年期から老年期にわたる幅広い年齢層の対象者を受け持つため、基礎看護学、成人看護学、老年看護学等で学んだ知識と技術を活用することになる。また、公衆衛生看護学に関する知識と技術、「老年在宅看護実習」で学ぶ内容と本実習科目の内容は関連が深く、本実習を円滑に展開するために、活用する必要がある。予習および復習時間は4時間以上必要である。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。									

授業科目	公衆衛生看護実習	科目責任者	春山 早苗	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件あり
				時間数	180	受講セメスター	3年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	公衆衛生看護活動の実際をとおり、看護職の役割、並びに、生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための公衆衛生の理念に基づく看護活動方法及びヘルスケアシステムづくりのための看護活動方法の理解を深め、公衆衛生看護の活動方法の基本を習得する。						
	到達目標	1. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズの把握方法とその充足のための個人・家族への援助方法の基本を習得する。 2. 地域・学校・職場の生活集団のヘルスニーズを充足するための看護活動の展開方法について理解を深め、その基本を習得する。 3. ヘルスケアシステムを整え機能させるための行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職としての機能・役割や活動方法の理解を深める。 4. 行政分野・学校保健分野・産業保健分野における看護職との関わりをとおり、特定生活集団の健康生活を守るということに責任を持つ看護職のあり方の理解を深める。 5. 現在行われている看護活動から、地域・学校・職場の生活集団の健康レベルや生活の質をより向上させるための看護の課題を考える。						
学習内容ならびに方法								
実習期間	4週間							
実習方法	学生をグループに分け、栃木県内の保健所（健康福祉センター）で4日間、市町村で10日間（事前訪問実習1日間を含む）、小中学校で2日間、事業所で1日間の実習をする。 詳細は「公衆衛生看護実習要項」に示す。							
実習内容	1. 実習オリエンテーション 学内において全体オリエンテーション、並びに、実習保健所（健康福祉センター）毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎のオリエンテーションを行う。また、保健所（健康福祉センター）、市町村については実習初日に実習施設においてもオリエンテーションを行う。 2. 行政分野における看護実習 1) 保健所（健康福祉センター）実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習保健所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において4日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 2) 市町村実習 ①「公衆衛生看護活動論」「公衆衛生看護方法論」「健康生活支援技術Ⅱ」と連動して学生各々が実習に関わる事前学習や実習のための準備を行い、実習に臨む。 ②実習期間中に各実習施設で予定されている事業や保健師活動を参考に、実習計画及び行動計画を立てる。 ③学生自身が立てた実習計画及び行動計画に沿って、実習指導者及び教員の指導により実習する。 ④最終日にはカンファレンスを行い、実習目標に対する学びを発表する。 3. 学校保健分野における看護実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習小中学校毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（養護教諭）及び教員の指導により実習する。 ③最終日には、各実習施設において2日間の実習を通したまとめのカンファレンスを実習指導者と共に行う。 ④学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 4. 産業保健分野における看護実習 ①資料などを基に学生各々が事前学習を行い、実習に臨む。 ②実習事業所毎に組まれた実習計画に応じて、実習指導者（産業看護職）及び教員の指導により実習する。 ③学内演習において、事前学習や実習後の学習内容の整理、課題レポートの作成等を行う。 5. 統合カンファレンス 行政分野における看護実習、学校保健分野における看護実習、産業保健分野における看護実習の全ての実習終了後、学内で統合カンファレンスを行う。学生は小グループに分かれ、保健所実習における学びを共有するとともに各分野で現在行われている看護活動に共通する課題及びその課題を改善するための方法について討議する。 6. 実習統合レポートの作成 統合カンファレンスでの学びを基に、「地域・学校・職場の各フィールドで現在行われている看護活動に共通する課題、及び、その課題を改善するための方法」について考察し、実習統合レポートを作成する。							

担当教員	地域看護学科科目担当教員全員、看護基礎科学科目教員全員 ・各実習グループ（実習保健所毎、実習市町村毎、実習小中学校毎、実習事業所毎）に担当教員を置く。 ・看護基礎科学科目教員は産業分野における看護実習のみ担当する。		
実習場所	1. 行政分野における看護実習 1) 保健所（健康福祉センター）実習 県西健康福祉センター、県東健康福祉センター、県南健康福祉センター、県北健康福祉センター、 安足健康福祉センター、栃木健康福祉センター、今市健康福祉センター、烏山健康福祉センター、 矢板健康福祉センター 2) 市町村実習 宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、日光市（今市保健福祉センター）、小山市、真岡市、大田原市、 那須塩原市（黒磯保健センター）、さくら市（氏家保健センター）、下野市、上三川町、益子町、茂木町、芳賀町、 壬生町、野木町 2. 学校保健分野における看護実習 下野市立小中学校（薬師寺小学校、祇園小学校、緑小学校、吉田西小学校、石橋小学校、古山小学校、 細谷小学校、石橋北小学校、国分寺小学校、吉田東小学校、国分寺東小学校、南河内中学校、 南河内第二中学校、石橋中学校、国分寺中学校） 3. 産業保健分野における看護実習 （株）沖電気工業 本庄工場、（株）沖電気工業 富岡工場、（株）TKC、 （株）キャノン 宇都宮事業所光学技術研究所、（株）小松製作所 栃木工場、 （株）SUBARU 航空宇宙カンパニー		
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「日常生活援助実習」 「健康生活支援技術Ⅰ」 ・単位取得見込みが必要な科目 「健康生活支援技術Ⅱ」 「公衆衛生看護活動論」 「公衆衛生看護方法論」	評価方法	出席状況を前提に、実習担当教員が、実習態度、実習記録物の提出状況、自己評価の実施状況、実習目標の到達度を総合的に評価する。その後、科目責任者が確認し最終評価する。詳細は「公衆衛生看護実習要項」のとおり。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	「実践基礎看護学概論Ⅲ」で学習した公衆衛生看護の目的と原則等、並びに、「健康生活支援技術Ⅰ」で学習した保健指導技術及び家族相談援助論を、よく復習して臨むこと。直前の「公衆衛生看護活動論」と「健康生活支援技術Ⅱ」の学習内容、並びに、実習市町をフィールドとして演習する「公衆衛生看護方法論」も、本実習をする上で非常に重要である。「公衆衛生看護実習要項」に記載されている事前学習に取り組んだ上で実習に臨み、本実習による学びを復習しながら、4年次の「行政看護管理論」及び「地域健康危機管理論」において、さらに学びを深める。予習復習時間は8時間以上。本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。		

授業科目	助産学実習		科目責任者	川野 亜津子	単位数	8	必修選択別	選択	履修条件あり
					時間数	360	受講セメスター	4年次後学期	
学習目的と到達目標	目的	周産期の母子と家族を支援するための助産実践の基礎的技術を習得し、助産業務について理解する。							
	到達目標	1. 出産・育児に向けた妊娠中の健康教育・保健指導について学ぶ（集団指導・個別指導）。 2. 出産に向けた一般外来・助産師外来での妊婦管理について学ぶ。 3. 分娩進行中の産婦・胎児および出生直後の新生児のアセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。 4. 分娩期に必要な看護・助産技術および基礎的な分娩介助技術を習得する。 5. 早期産褥期・早期新生児期の母子と家族アセスメントと支援に必要な基礎的技術を習得する。							
学習内容ならびに方法									
実習期間 実習方法	8週間 1. 妊娠期実習 1) 妊娠期外来実習（一部助産師外来）…妊婦健診に参加し、妊婦のアセスメントの基礎的技術を学ぶと共に、妊婦とのかかわりについての実際や必要な支援について考える。 2) 妊婦健康教育実習（出産準備教室）…妊娠週数に応じた集団指導での健康教育を見学し、その支援について考える。 2. 分娩・育児期実習 1) 分娩期実習…分娩入院した産婦を受け持ち、分娩期にある母子とその家族に必要な基礎的助産活動を展開する。直接介助を行う受け持ちは9ケース以上とする。うち1ケースは産褥・新生児期までの継続ケースとする。 2) 新生児期実習…間接介助として出生直後の新生児ケアを行う。そのケースについては、できるかぎり、出生後2時間および出生後24時間の観察・評価を行う。 3) 母子の継続実習（継続ケース） ①入院中の母子受け持ち実習…「分娩期助産実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）のうち1ケースを継続して受け持ち、入院中の母子に必要な基礎的援助活動を展開する。 ②退院後の母子受け持ち実習…「入院中の母子受け持ち実習」で受け持ったケース（褥婦、新生児）を継続して受け持ち、退院後1～2週間の時点での外来での支援あるいは家庭訪問、産後1ヶ月健診（可能ならば新生児1ヶ月健診も）の実習を行い、新生児・乳児を養育する家庭における母子とその家族に必要な基礎的援助活動を展開する。 4) 帝王切開術およびその前後の母子のケア実習…帝王切開術を受ける母子に行われるケアを見学し、その状況を理解すると共に、母子とその家族に必要な支援について考える。 3. 地域を中心とした実習の概略 助産所実習…地域で開業する助産師の活動を見学し、その実際を学ぶ。								
実習内容	周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）の助産師の役割、ケア・健康教育の意義と方法、助産過程の展開について学び、助産技術の基本的実践を習得する。								
担当教員	母性看護学教員								
実習場所	自治医科大学附属病院産科病棟・外来、自治医科大学附属さいたま医療センター、池羽レディースクリニック ことり助産院、マザーズヘイブン佐藤助産院								
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「基礎助産学Ⅰ」「基礎助産学Ⅱ」「基礎助産学Ⅲ」 「実践助産学Ⅰ」「実践助産学Ⅱ」「実践助産学Ⅲ」 「実践地域助産学」「助産管理学」				評価方法	助産学実習最終評価票に基づき、評価する（全体を通した実習状況、ケース受け持ち実習、実習態度） （100%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する			
備考	助産師国家試験受験資格を得ようとする者には必修の科目である。 4年次開講科目は、助産師国家試験受験資格関連科目受講学生選考審査合格者のみが受講できる。選抜方法は別途周知する。 分娩介助実習の進行状況により、延長実習があり得る。長期間の実習で負担も大きい、高い知識と技術を獲得できる。これまでの学びを総括する実習であり、関連する科目の復習を同時進行で行う。教員、臨床教員、臨地実習指導者、臨床スタッフ等の支援があつて成り立っており、適時助言・指導を得ながら、進めていくようにする。 実習開始にあたっては、分娩介助の技術チェックを学内で行う。予習復習時間として16時間以上を使うこと。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。								